Japan Geoscience Union Meeting 2011
(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

MSD004-P01 会場:コンベンションホール 時間:5 月 27 日 10:30-13:00

短波長赤外ハイパースペクトルセンサーによる植生リモセンの検討
Remore sensing of vegetation by using SWIR hyperspectral remote sensing

鈴木 睦 [1*], 眞子 直弘 [1], 久世 宏明 [2], 梶原 康司 [2], 本郷 千春 [2], 本多 嘉明 [2], 遠藤 貴宏 [3], 小川 健一 [4]
Makoto Suzuki[1*], Naohiro Manago[1], Hiroaki Kuze[2], Koji Kajiwara[2], Chiharu Hongo[2], Yoshiaki Honda[2], Takahiro Endo[3], Ken'ichi Ogawa[4]

[1] 宇宙科学研究所, [2] 千葉大学, [3] 東京大学, [4] 岡山県農林水産総合センター生物科学研究所
[1]ISAS, [2]Chiba Univ., [3]Tokyo Univ., [4]RIBS Okayama

衛星からの植生リモセンは地球環境問題研究・生態系保護・森林管理・農業生産管理あるいは農業政策などの広い分野において非常に重要な科学的・産業的・政策的な手段である。NOAA 衛星の NDVI(規格化植生指数) は、2ch の観測データと非常に簡単なアルゴリズムに基づくがものであるが、幅広い科学的成果をもたらしてきた。近年では更に可視?短波長赤外領域の詳細なスペクトル観測から植生分類あるいは生育状況の指数化などの試みが多数行われてきている。岡山 RIBS の小河らは、室内実験になどから 1.7 ミクロン帯における 1-3nm 程度の高い分光観測での観測が植生リモセンに有効である可能性を提唱している。ここでは 1.7 ミクロン帯の衛星搭載ハイパースペクトルセンサーによる植生リモセンの概念検討状況について報告する。

キーワード: 短波長赤外, 植生, ハイパースペクトルセンサー
Keywords: SWIR, vegetation, hyper spectral sensor